



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

テーマ

備える

そな

ウィズコロナの時代をどう生きるか

〈令和3年度〉北海道大学公開講座

全学企画

オンライン開催
(Zoom予定)

定員
100名
程度

日程

2021年 6/3(木) ▶ 7/29(木)

受講料

受講料 無料

受講資格

18歳以上の方であればどなたでも受講できます。(学歴・職歴は問いません)

第1回	6/3(木) 18:30~20:00	パンデミック インフルエンザに備えて	北海道大学名誉教授・ ユニバーシティプロフェッサー 喜田 宏	第5回	7/1(木) 18:30~20:00	心はいつも未来に備えている 「意識」研究の最前線	文学研究院 教授 田口 茂
第2回	6/10(木) 18:30~20:00	地球温暖化って本当? どんなことが起こるの?	低温科学研究所 教授 大島慶一郎	第6回	7/8(木) 18:30~20:00	がんに克つ ～現代の武器を知る～	北海道大学病院 准教授 樋田 泰浩
第3回	6/17(木) 18:30~20:00	北海道を襲う 超巨大地震にどう備える?	理学研究院 教授 高橋 浩晃	第7回	7/15(木) 18:30~20:00	人生100年時代に備える ～地域福祉・介護の動向と展望～	公共政策学連携研究部 教授 中園 和貴
第4回	6/24(木) 18:30~20:00	食料生産の未来に備える ～農業研究開発制度の今～	農学研究院 講師 齋藤 陽子	第8回	7/29(木) 18:30~20:00	縄文文化と「そなえる」を めぐる考古学	文学研究院 教授 小杉 康

申し込み方法

- ①北海道大学公開講座(全学企画)ホームページにアクセス
[<https://www.high.hokudai.ac.jp>]もしくは[右記のQRコード]
- ②申込フォームからお申し込みください

問い合わせ

国立大学法人北海道大学学務部学務企画課総務担当
メールアドレス suishin@academic.hokudai.ac.jp
〈土曜・日曜・祝日を除く〉9:00~17:00
電話 011-706-5567(直通)





ウィズコロナの時代をどう生きるか

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、私たちは今、新たなリスクに対して備えることの難しさを、改めて実感させられています。感染症の他にも、災害や気候変動、少子高齢化、さらには人工知能を始めとする新たなテクノロジーの生活への一層の浸透など、自然と社会の急激な変化にいかに対応するかが、現代社会に生きる私たち一人ひとりにとって、切実な課題となっています。リスクの複合化・複雑化が進行し、不確実性が一層強まる今日、悔いなき将来への備えはいかにして可能なか。将来への備えをめぐる諸問題について、多様な専門分野の講義を通じて学び、考えます。

第1回 6月3日(木)

北海道大学名誉教授・ユニバーシティプロフェッサー 喜田 宏 きだ・ひろし

1969年北大大学院獣医学研究科修士課程修了、武田薬品技術研究職を経て、北大獣医学部講師、助教授、教授、大学院獣医学研究科長・学部長を歴任、人獣共通感染症リサーチセンターを創立、センター長、現在は統括。WHOとOIEの認定専門家、北大ユニバーシティプロフェッサー、長崎大学感染症共同研究拠点長。インフルエンザウイルスの生態学研究に対し日本学士院賞。人獣共通感染症対策研究に対し北海道功労賞。ウイルス学と国際貢献に対し文化功労者。

パンデミック インフルエンザに備えて

近年、新興感染症の出現頻度が高くなり、混乱を招いている。これらはすべて人獣共通感染症である。パンデミックインフルエンザを例に人獣共通感染症の出現にいかに対応するべきかについてお話しする。



第2回 6月10日(木)

低温科学研究所 教授 大島慶一郎 おおしま・けいいちろう

北海道大学低温科学研究所教授。北海道大学大学院理学研究科博士課程中退。理学博士。1990-1992年日本南極地域観測隊隊員として昭和基地にて越冬。2008年より現職。南極海、北極海、オホーツク海等、極域の海の大循環や気候との関係を研究。昨年一昨年南極海航海観測に参加。

地球温暖化って本当？ どんなことが起こるの？

温暖化懐疑論もありますが、専門家の99.9%は、地球温暖化は進行していくと考えています。では、温暖化によってどんなことが起こるのか？将来の地球の気候はどうやって予測しているのか？等も含めて、研究の最前線のお話をします。



第3回 6月17日(木)

理学研究院 教授 高橋 浩晃 たかはし・ひろあき

北大理学部卒、同大学大学院理学研究科博士後期課程修了。博士(理学)。北大理学研究科助手、ハワイ大学客員研究員、北大理学研究院准教授を経て2017年から現職。専門は地震学及び火山学、自然災害科学。災害軽減への貢献を目指した地震・火山噴火発生メカニズムの研究を行っている。

北海道を襲う超巨大地震 にどう備える？

北海道では数百年に1度の超巨大地震の発生が切迫しており、太平洋沿岸での津波被害に加え、北海道全域が危機に陥る可能性があります。地震が引き起こす複合的な災害にどう備えるかを一緒に考えたいと思います。



第4回 6月24日(木)

農学研究院 講師 齋藤 陽子 さいとう・ようこ

北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了。博士(農学)。帯広畜産大学畜産学部助教などを経て2014年より現職。専門は農業経済学。農業における国内外の研究開発制度について、経済学からのアプローチに取り組む。

食料生産の未来に備える ～農業研究開発制度の今～

農業分野の研究開発、とりわけ品種改良によって様々な品種が世に送り出されてきました。一方で、遺伝資源へのアクセスが難しくなるなどの課題もあります。研究開発という側面から、食料の「備える」について考えていきます。



第5回 7月1日(木)

文学研究院 教授 田口 茂 たぐち・しげる

早稲田大学大学院文学研究科単位取得退学、ドイツ・ヴッパータール大学哲学科博士課程修了。哲学博士(Dr. phil.)。山形大学准教授、北海道大学准教授などを経て、2019年から現職。人間知・脳・AI研究教育センター長。現象学研究、哲学・神経科学の学際研究等に取り組む。

心はいつも未来に備えている 「意識」研究の最前線

近年、哲学、神経科学、AI研究などの融合により、新しい「意識」研究のトレンドが生まれています。そこで浮上しているのは「予測」の重要性です。本講義では、このような新しい研究方向について、様々な事例を交えてご紹介します。



第6回 7月8日(木)

北海道大学病院 准教授 樋田 泰浩 ひだ・やすひろ

北海道大学医学部卒、同博士課程終了、博士(医学)。横須賀に日米海軍病院インターン、ハーバード大学医学部小児病院ポスドク、同助手などを経て、2015年から現職。専門は呼吸器外科。肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔・胸膜腫瘍の外科治療の傍ら新しい治療薬、治療法の研究開発に従事している。

がんにくつ ～現代の武器を知る～

がんの三大治療、手術、放射線、抗癌剤に加えて2000年以降に抗体医薬、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬が登場し、昨年2020年には日本人研究者が発見した「光免疫療法」が世界に先駆けて承認されました。治療の武器を学んで備えましょう。



第7回 7月15日(木)

公共政策学連携研究部 教授 中園 和貴 なかその・かずたか

2002年厚生労働省入省。介護保険、医療保険・後期高齢者医療、医療提供体制・データヘルス、年金制度改革・年金事業運営、障害者雇用などを担当。滋賀県草津市役所勤務を経て、2019年9月より現職。地域包括ケアシステム・地域共生社会の構築、医療介護の連携に関心がある。

人生100年代に備える ～地域福祉・介護の動向と展望～

今後、北海道においては、札幌市で更なる高齢化が進む一方で、高齢化のピークを越えた地方部は人口減少が加速していくことが予測されます。住み慣れた地域での生活を続けるために、地域の医療福祉の資源をどのように組み合わせるのか、そこに地域の一員たる個人はどのような係わり方が考えられるのか、一緒に考えましょう。



第8回 7月29日(木)

文学研究院 教授 小杉 康 こすぎ・やすし

明治大学文学部卒、同大学院文学研究科考古学専攻博士課程後期単位取得退学。日本学術振興会特別研究員、北海道大学文学部助教授を経て、同大学文学研究院教授。専門は縄文文化の考古学、民俗考古学。

縄文文化と「そなえる」 をめぐる考古学

人類はいつから「そなえる」という行動をおこなうようになったのでしょうか。日本列島で展開した人類文化の一つである縄文文化を例にして、人類社会における「そなえる」行動の意味を考えてみましょう。

